

## 第3章 草津市の「住みやすさ」の要因

### 1 現状の草津市の「住みやすさ」の要因

第2章で行ったアンケートの分析結果から、現状の草津市の「住みやすさ」の要因となっているものをまとめた。

第一に、利便性が良いことである。これには、公共交通(バス・電車等)や自動車利用の利便性、日常の買物の利便性がある。通勤・通学先の近くに住み、通う時間のかからない生活ができる。ただし、居住する地域によって違いが見られ、郊外地域では、公共交通(バス・電車等)の利便性の評価は低い。

第二に、必要な施設があることである。草津市では、「必要な医療施設が近くにあること」に対し、地域を問わず全体的に評価が高い。

第三に、人とのコミュニケーションがある程度とれていることである。親しく話ができたり、困った時に助けてくれる人がいることが住みよさに繋がっている。ただし地域差があり、新市街地地域や旧市街地地域では「親しく話せる人がいる」よりも「困った時に助けてくれる人がいる」の項目の値が低く、「近所づきあいは面倒だと思う」は新市街地地域が最も高い。また、女性よりも男性の方が「親しく話せる人がいる」の値が顕著に低い。

第四に、住環境としての自然環境の良さである。アンケート設計時にはこの領域を「ゆとり」としている。緑が住まいの周辺に多いという評価は、郊外地域で最も高いが、他の地域でも平均指数2.5を上回っており、緑化等うるおいのあるまちづくりを行ってきたことが反映している可能性がある。ただし、「自然の中で遊べる」「自然に触れることができる」等の場所についての評価は、どの地域においても低い。

### 2 草津市民の「住みやすさ」向上に関わる要因・要素

次に、「『住みやすさ』に対する意識」(図2-8)および「転居時の重視－住み続けている理由」(図2-9)から、現在草津市に居住している人の「住みやすさ」向上に関わる要因を整理した。「転居の際に重視する項目」が現在の居住以上の期待を表し、また「住み続けている理由」が現在の居住の上での満足度を表しており、値が高くなっている項目が、住みやすさとして、理想的にはもっと充実を、とされているものであり、低くなっている項目が、現実に満足しているものである。(表3-1)

なお、問 14 から問 48、問 55 から問 56 による 2 つの資料から抽出したため、要因間の優先度は比較できないが、問 55 と問 56 間では比較が可能である。

これにより、アンケート設計において仮に設定した「利便性」「安全安心」「つながり」「ゆとり」「公的支援」の 5 つの要因が草津市民の「住みやすさ」向上に影響を与え得ること、それぞれに「住みやすさ」に影響すると考えられる要素を持っていることがわかった。さらに、4 つの地域ごとに生活背景等を反映し、「住みやすさ」の向上に求める要素が異なることがわかった。(表 3-2)

表 3-1 「住みやすさ」向上に関わる要因・要素

要因	要素(項目)	現状に対する評価が高いもの(平均値以上)
利便性	公共交通(電車・バス等)の利便性が良い	○
	日常の買い物の利便性が良い	○
安全・安心	犯罪が少ない	
	災害が少ない	
つながり	集える場所がある	
	近所を含むコミュニケーションがある	○
ゆとり	伝統・文化	
	イベント等への参加	
公的施設	医療施設が充実	○
	高齢者施設が充実	
	子育て関係施設や教育が充実	

出所：草津未来研究所作成

表 3-2 背景別「住みやすさ」向上に関わる要素(数値が高いもの・低いもの 3 つまで)

	数値が低いもの	新市街地	旧市街地	新旧混在	郊外	男性	女性
「住みやすさ」に対する意識	1	学童保育施設	学童保育施設	学童保育施設	高齢者施設	学童保育施設	学童保育施設
	2	教育	教育	教育	バリアフリー	高齢者施設	高齢者施設
	3	伝統・文化	高齢者施設	高齢者施設	学童保育施設	教育	教育
	数値が高いもの	新市街地	旧市街地	新旧混在	郊外	男性	女性
転居時の重視 - 住み続けている理由	1	医療施設	医療施設	医療施設	公共交通	医療施設	医療施設
	2	防犯	公共交通	公共交通	医療施設	防犯	公共交通
	3	高齢者施設	高齢者施設	高齢者施設	買い物やすさ	高齢者施設	高齢者施設

出所：草津未来研究所作成

アンケート設計時の 5 要因の順に見ると、「利便性」の要素として、公共交通(バス・電車等)と日常生活の買物の利便性に対する関心が高い。新市街地地域以外の地域で公共交通の項目が高く、郊外地域では最も高い。自由記述にも新市街地地域以外では「バス」という言葉が出ており、自動車以外の交通手段の充実に関心が寄せられている。「日常生活の買物に困らないこと」については、郊外地域において特に関心が高くなっている。いずれ

の項目も、自分たちの高齢化がさらに進んだ時にどうするか、という不安感が反映されていると考えられる。

次に「公的施設」の要素は、医療施設と高齢者施設の関心が高くなっている。医療施設については、「近くにある」との評価も高く(図2-8)、まさに基本的に必要な施設として認識されていると考えられる。高齢者施設は、今後の社会情勢も踏まえて関心が高いと考えられる。郊外地域では最も関心が高い。

「安心・安全」の要素は、犯罪が少ないこと、自然災害が少ないことに対して、どの地域においても関心が高く、新市街地地域や新旧混在地域では防犯について高くなっている。転出先に求める条件としても高いため、都市に求められている基本的条件と考えることができる。この点が向上すれば、さらに住みやすさが増すといえる。

「つながり」では、「気軽に集える場がある」という意識は低い。「ゆとり」については、「近所の人と話をすること」や「地域の伝統文化やイベント等への積極的な参加」の項目について「つながり」と「ゆとり」双方の要素があるが、これらの機会は少ないという意識がある。これらに対する満足感は、新市街地地域で少ない傾向があるが、どの地域においても、また性別に限定されることなく、地域で何らかの結びつきの実感が持てるような手だてが必要であろう。

なお、子どもに関する施設の評価は全体的に低く、郊外地域以外では、学童保育施設についての関心が高齢者施設を上回っている。

草津市ではICT教育の導入等をはじめ教育の充実に力を入れているが、小・中学校の教育の充実を求める声が高い。この状況の背景には、①市の行っている施策や事業が市民に見えにくいこと、②より良い教育を受けさせたいという思いがあること、③日本が知識社会であること等が考えられる。これらの解決策としては、①については効果的な情報提供を行うことによって市民が抱くイメージとのギャップを解消する、②や③については、草津市民が教育に対して何を期待しているのかを調査することが考えられる。

草津市民の「住みやすさ」向上に関わる要因は、利便性や医療施設については、現状の「住みやすさ」に対する意識でも評価が高いことから、ハード整備が相対的には進んでおり一定の満足感があると考えられる。高齢者や子どもに関する施設等、社会情勢を鑑みて計画的な対応が行われているものもある。これらは既に満足感をある程度まで満たしていると考えると、今後、「住みやすさ」を向上させる余地があるのは、「安全・安心」「つながり」「ゆとり」の要因である。